

令和元年度 兵庫県広報研究大会 参加報告書

日 時：令和2年2月13日（木）13：30～16：00

場 所：兵庫県農業共済会館 7階 大会議室

主 催：兵庫県、兵庫県広報協会

後 援：兵庫県市長会、兵庫県町村会、兵庫県市議会議長会、兵庫県町議会議長会

参 加 者：兵庫県内各市町・団体・企業等の広報・広聴担当者（約80人）

第67回兵庫県広報コンクール表彰式

事例発表〔広報コンクール受賞団体等 1団体〕

広報紙部門（市の部）特選・・・小野市

講 演

・「広報紙のキホン」（有田 佳浩 県編集・デザインディレクター）

大阪大学在学中に、編集プロダクションを立ち上げる。その後、同大学を中退し、大阪第一ホテルや京都センチュリーホテルでの広報業務を担う。「(株)彩都メディアラボ」のチーフ編集ディレクター等を経て、平成16年4月に編集・デザイン事務所「コペルニクスデザイン」を設立。世田谷の人気エリアを紹介する地域メディア「自由が丘℃」「駒沢公園倶楽部」「三茶TRIP」のプロデュースなどに取り組む。平成30年4月に兵庫県編集・デザインディレクターに就任。

・「HPとSNSのキホン」（瀧 大補 県メディアディレクター）

奈良先端科学技術大学院大学前期博士課程修了。在学中に個人でSNSを開発、その後「(株)アイライト」チーフエンジニア、「NPO法人ネットワーク『地球村』」ICT担当を歴任。個人事業「ASOBIWORKS」では、介護、公共政策、イベント、商店等、様々な事業のWeb広報業務を担当。平成29年3月、「(株)U.」を設立。映画「007-spectre」や「流浪人剣心 京都大火編」の特別プロモーションなど、公園・商業施設でのインタラクティブ(体験型)展示を手掛ける。平成29年、国際的なハッカソン大会「Junction ASIA Home Track」にて部門優勝。平成30年4月に兵庫県メディアディレクターに就任。

パネルディスカッション

質疑応答

第67回 兵庫県広報コンクール審査結果一覧表

※網掛け部…全国広報コンクール推薦作品

1 広報紙部門

(1) 市の部

賞	市名	広 報	紙 名
特 選	小 野 市	ONO Press (広報おの)	10 月 号
入 選	川 西 市	広報かわにしmilife	11 月 号
入 選	加 古 川 市	広報かこがわ	9 月 号
佳 作	明 石 市	広報あかし	7 月 15 日 号
企 画 賞	淡 路 市	広報淡路	9 月 号
努 力 賞	芦 屋 市	広報あしや	7 月 号

(2) 町の部

賞	市名	広 報	紙 名
特 選	佐 用 町	広報さよう	8 月 号
入 選	太 子 町	広報たいし	9 月 号

2 広報写真部門

(1) 一枚写真の部

賞	市町名	広 報	紙 名
特 選	加 西 市	広報かさい	7 月 号
入 選	洲 本 市	広報すもと	8 月 号
入 選	淡 路 市	広報淡路	10 月 号
佳 作	赤 穂 市	広報あこう	1 月 号
企 画 賞	小 野 市	ONO Press (広報おの)	6 月 号
努 力 賞	尼 崎 市	市報あまがさき	11 月 号
努 力 賞	芦 屋 市	広報あしや	9 月 号

(2) 組み写真の部

賞	市町名	広 報	紙 名
特 選	小 野 市	ONO Press (広報おの)	11 月 号
入 選	豊 岡 市	広報とよおか	10 月 号
佳 作	猪 名 川 町	広報いながわ	10 月 号
企 画 賞	三 木 市	広報みき	7 月 号
努 力 賞	相 生 市	広報あいおい	7 月 号

3 映像部門

賞	市町名	作 品 名
特 選	西 脇 市	この祭りが好き このまちが好き ～西脇市あばれ太鼓～
入 選	明 石 市	明石市制施行100周年 未来へつなぐ100年
佳 作	神 戸 市	GOD street DOOR
企 画 賞	猪 名 川 町	消防隊長「イナシヨ-45炎」～猪名川町を守る45人の隊員たち～

所感

岡崎 義樹

今回は、兵庫県広報コンクールに高瀬副議長と共に初めて参加しました。

兵庫県広報コンクールは毎年開催されており、41市町中26市町が参加され、広報紙を作成している各自治体のみなさんから、市民に伝えたいことは何か、どのような表現で伝えるかなど、工夫されている点や苦労話などを聞かせてもらいました。

広報紙部門で特選賞に選ばれた小野市の「ONO Press (広報おの)」と入選された川西市の「広報かわにし milife」の話を中心に、広報紙の作成について、現場の状況や年間目標をもったの取組、作成時間、取材についてなど、いろいろなエピソードを和やかに聞かせてもらいました。

次回は、広報広聴委員全員で参加しても良いのではと思いました。

特に気になったのが、スタッフが3～4人の少人数で広報紙の作成に取り組んでいることや写真のレイアウトの違いで大きく表現が変わること、男性と女性とでは取材方法の違いからかどうかは分かりませんが、市民の協力が得やすく、取材がスムーズにできることなど、いろいろなエピソードがありました。

また、製作時間についてロングスパンで取り組んだ自治体や、2色刷りで勝負をかけていた自治体もありました。私自身、広報紙はカラーが一番多いと思っていましたが、それを覆されたように感じました。こうした広報コンクールは毎年行っているので、西脇市議会としても、今後の広報紙の作成について、広報コンクールを参考に研究しても良いのではないかと思います。

兵庫県広報研究大会は、毎年度末に開催されており、県内の広報担当部署が参加し、その年度の活動が顕著であった自治体の表彰や情報交流を実施している。西脇市もほぼ毎年入選しており、今年度は映像部門で特選（優勝）を受賞した。

私は年4回発行している西脇市議会の「議会だより」の編集を担当しているので参加した。他の行政の参加者と比べると議員は「議会だより」の発行がメインの仕事ではないので多少立場の違いは感じたが、より親しみやすい「議会だより」を発行することで、市民の議会への理解が深まり、市民と議会の距離が縮まると考えると軽んずることもできない。

今回参加してみて良かったことは、行政の担当者は市民に読もうという気持ちを持ってもらうためにさまざまな工夫をしていることを理解できた点だ。例えば、タイトルの付け方、写真や色の使い方、紙面のレイアウトなど、参加した自治体担当者の中で活発に情報交換している場に居合わせた点は非常に有意義であった。ただ、私もこういった部分をそれなりに考えて編集していることは付け加えておきたい。

「議会だより」は、各議員の一般質問、討論、議案質疑、審議結果などが全体の半分を占めていて、各議員の作成した原稿や提出された写真などを最大限尊重する必要があるため、編集者として介入できる範囲に限界もあると思うが、今回学んだ「編集の心得」を心に刻み頑張りたい。

